片貝新聞

発行所
片貝新聞社
〒947-01
小千谷市片貝町10367-4
TEL・FAX 0258-84-3246
編集発行人　吉原芳郎
印刷所　吉原印刷㈱
題字　黒崎敬湶氏

JA片貝町
シンボルマーク
天の恵み地の恵み

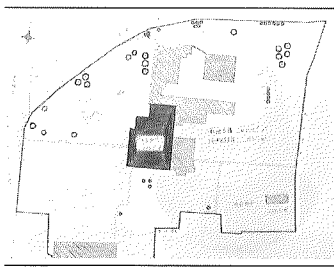
市が佐藤邸跡の具体案示す
一部を残し、あくまでも公園として
地元の窓口作りが急務

市は佐藤佐平治邸跡約四千平方㍍を購入して、公園として整備することにしているが、去る10月2日夜ふるさと会館で、協議会を中心とする役員を集め、計画の概略案を示した。これによると専門家に建物の耐用年数を調べてもらったところ、管理さえきちんとすれば二十年以上はもつとのことであるので、一部分を残し手直しし、他は取り壊して公園として整備したい、と初めて具体的な計画を明らかにした。

残して手直しする場所は、写真の塗りつぶした部分約三百三十平方m。斜線の約六百二十平方mは取り壊す。残した場所に台所、トイレなどを新設、下水道工事、取り壊し費用などを含めた総額は千五百万円から二千万円で、全額市が負担する。

市が専門家に依頼した耐用年数調査は「古い建物のため除去後の残存建物にどの様な異常が見つかるか分からないが、目視する限りでは一階の座敷回りの床にはゆるみは無い。床に不陸が無いということは何十年の数字は上げたいが、床下換気に意を用い、特に蟻害などに注意する等の管理を徹底すれば二十年以上は耐用年数がある」というものだった。

また、基本的な考え方としては「将来的に文化遺産として価値のある建築物としての佐藤邸に、〝やせかまど〟の太刀川喜右衛門、朝陽館を設立した先覚者を初め多くの学者文人により築かれた地域文化、更にそれを基に現代に花開いた大学者浅田壮太郎先生など、片貝町ゆかりの文化人の筆墨や資料を展示する場とし、片貝町のシンボルとしての建築物に改装し、また、県外にいる人達が帰省したおりに昔ながらのままにある佐藤邸を見てやっと田舎に帰ってきたとホッとする安らぎの心、また地元に住む人達が通り歩きに眺める時、佐藤邸がそこにある事で自慢できるような町づくりを考えながら、すなわち佐藤邸が佐藤邸としての外観を保ちながら、しかも将来とも維持管理が適切に行き届くような方法を摸索して、残存部分を出来るだけ小さくする様に考えた」と明らかにしている。



出席者から「維持管理費はどうなるのか」の質問が出され、木原・市都市開発課長は「ガス、水道、電気の基本料金程度は市が補助出来ると思うし、雪下しに対しても補助出来るだろう」と答えた。「福祉施設とした方がよい」、「管理人室は」、「宿泊施設として利用してもよいのか」などには「基本的にはあくまでも公園として考えている」とこれらの考えには否定的な姿勢を示した。

また市の一歩進めた具体案を評価しながら、「市の示した案に対し、地元としては前向きに考えて行くべきであろうし、市に頼るのみではない考え方を持つことが必要」と前向きの意見が出されていた。

市は今後具体的に進めるために、地元の窓口を早く決めてほしいと要望した。

吉井陽協議会長は小紙の取材に対して「協議会が中心となり、各方面の協力を得て十二～十三名くらいの委員会を作り窓口とし、話を進めて行きたいと考えている」と語った。

主張

片貝中学校 五十周年に思う

片貝中学校も今年は創立五十周年を迎え、この十一月十六日晴れて記念式典が催されることになっている。卒業生を送ること実に六千名、年々小子化の傾向がつづき在校生も二百名を切っているのが実情である。

この間学業、体育両面にわたって輝かしい成果をあげ今日にいたっていることに、関係者はもとより町民にとっても誇りであり、学校に対する理解も他町村に引けを取らず、それが今回の記念行事に対する寄付行為にも現われ、予定以上の寄付が寄せられたと聞いた。

片貝に住んでいる人達はあまり感じてないが、たしかにこうした学校に対する理解、祭りに寄せる情熱など他町村の人々に、特殊とか異常とか感じさせる特異なものを町民が持っていることも事実である。さぞかしいろんな面で積極的な行動を起こす、活気ある街だと信じているようだ。

この片貝も特に近年はご他聞に洩れずバブル崩壊による影響を受け、経済状態も鈍く何か活気に欠けるきらいがあり、従って祭りの二日間だけがいやが上にも目につく。さらに来年四月から実施されるビッグバンの導入は、あらゆる階層で予想を超える変化があると報じられており、この片貝は一体どういう環境になるのか先行き気掛かりなことである。

中学校在学中はいろんな面にわたって極めて顕著な活躍をした生徒が、いざ卒業してしまうと少しも目立つことなく、その姿が見えてこないのは何処に原因があるのだろうか。不思議でさえある。他町村と比較して伸びようとしている若者の芽をつむような封建性もこの町にはない。むしろ逆に以前と比べ平均化してきているようにも思う。これは戦後日本の特徴でもあり、片貝花火におけるこの各級会の動きをみていると特にそれを感ずる。

少しうがった見方になるがこうした均一化された中から、他と違った突出した行動は取りづらくそれなりの勇気は勿論、場合によっては孤独も覚悟しなければならず、敢えて波風を起こさず無難な態度になるのも当然なことで、積極性に欠ける人間ができてくるのは案外そんなところに原因があるようにも考えられるがどうであろうか。

少し人と違う考え方、特異なものを持っているということは、この競争社会を生き抜いて自分の希望する仕事を成し遂げるためには、極めて必要なことであり誇りにこそすれ、決して卑下すべきことではない。

教育の街、体育の街などといわれながら、全国的に名の知れた人が輩出しなかったのもこの五十年間皆無に近い。

この中学校五十周年を機会にともすれば平均化に捉われ、従来自分自身が意識の有無を問わずもっているところのもの、片貝人がもっている祭りに示すあの特異性を、日常活動でも生かせたとしたら、いかなる境遇にあっても充分に力を発揮できるし、またそうした人達を時代は必要とするようになろう。

JA片貝町すぎなみへ
コシヒカリが大人気

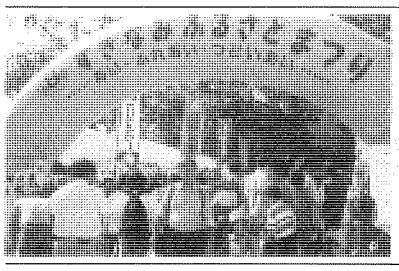
第八回すぎなみふるさとまつりが、10月11、12の両日東京都杉並区の井草森公園で開催され、当市も民間主導で参加したが、JA片貝町もこの出店実行委員会に加わり、収穫したてのコシヒカリなどを販売した。

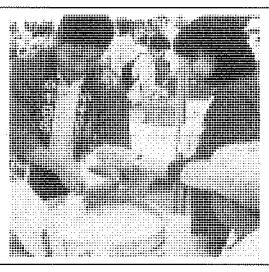
当市は井草森公園のすぐ近くにある小千谷学生寮が縁で昨年から参加、JA片貝町も今年が二年目。JA片貝町は昨年同様、あらかじめ東京片貝会メンバー三百名にダイレクトメールを郵送、大勢の人が訪れ、中には差し入れ持参の人もおり、スタッフも感激。千円以上買い物をした人に、一合桝で新米コシヒカリのすくい取りを実施したところ大人気となり、二日間で二俵半がふるまわれた。

販売の方も新米コシヒカリに人気が集中、中には一日目少量を買い「食べたらおいしかったので」と二日目にまた来て五kg、十kg詰めを買い求める人もいたとのこと。JA片貝町のコシヒカリも飛ぶように売れ、一日目で底をつきそうになったので、急きょ再発送を依頼するという嬉しいハプニングもあったとのこと。

出店実行委員会の中にはサンプラザも入っており、清酒などが人気を集めていたが、片貝の物産としては池田屋の羊羹が飛ぶように売れたという。

実行委員として会場にいた友田JA片貝町参事は「二日間で十数万人の人出で賑わい、米余り現象でありながらコシヒカリが大人気だった」と確かな手応えを語っていた。





片貝まつり反省会
今後は長岡方面が課題

今年も盛況裡に終始した片貝まつりの反省会が、10月3日JA片貝町の三階大ホールで開催された。長谷川・小千谷警察署長初め四十数名が参加、来年以降へ向けて様々な提案が行われた。

今まで最大の課題としてとり上げられていた駐車場対策については、市当局、観光協会、小千谷警察署、各企業等の協力を得て白山運動公園、第一測範、松下電送の駐車場を借りてシャトルバス運行するという処置が三年目を迎え、今年初めて黒字となり、煙火協会からの持ち出しをしなくて済んだ。小千谷市街地方面からの自動車対策はうまくいっているが、今後は長岡方面からの自動車対策が課題で、交通規制と駐車場について検討しなければならない。片貝町内の有料駐車場はまだゆとりがある。小学校と中学校グラウンドはきちんと整理すれば若干台数を増やせる。以上のような意見が出された。その他の項目ごとの反省点や意見は次のとおり。

〈交通規制について〉
現場のガードマンともっと連絡を密にするよう、煙火協会と交通安全協会が話しあう。

〈交通標識〉
不足しているので来年増加する。

〈仮設トイレ〉
昨年より五個増やし二十六個としたが、希望があれば更に増やす。

〈ゴミ処理〉
桟敷は名前が分かるのでひどいところには電話をする。神社境内、小学校、中学校のグラウンドのゴミ処理は町全体で検討しなければならない。

〈混雑解消〉
四尺玉打ち揚げ直後の混雑解消のために、来年は桟敷の近くにもう一本道を作る。

また、冒頭長谷川小千谷警察署長は、今年は特に問題になるような事案はなかった、と総括しながら「片貝まつりが終わった後も、四尺玉や物産品等の問い合わせがあるのだから、普段から片貝まつりに関連した商品作りに努め、経済活動にもっと力を入れてはどうか」と提言ともとれる話しがあった。

花火の後は寄付行為

秋季大祭に、巫子爺を町内ねり歩かせたり、夜空に豪華な花火を打ち揚げた。鳳友会（60才、会長吉井新一郎）、慰十六会（50才、会長佐藤博明）、つくし会（42才、会長金子義明）の各同級会では、それぞれの記念行事の締めくくりとして、各方面に寄贈を行なった。各同級会の寄贈先と金額は次の通り。

還暦鳳友会＝総額45万円
▽小千谷市社会福祉協議会に会長が訪れ＝20万円（写真）
▽片貝町協議会に同会が使用した屋台を保存管理する費用に＝10万円
▽片貝中学校同窓会に今後の会活動費に＝10万円
▽片貝町伝統芸能保存会運営費にと＝5万円

50才慰十六会＝総額40万円
▽片貝町協議会＝20万円
▽片貝小学校＝10万円
▽片貝中学校＝10万円

42才つくし会＝総額20万円
▽片貝小学校＝10万円
▽片貝中学校＝10万円

町民駅伝近づく
9日10時号砲

来たる9日（日）午前10時から第18回片貝町民駅伝大会（片貝体育協会、片貝中学校同窓会、片貝公民館主催）が開催される。同駅伝は勝敗もさることながら、毎回参加することに意義を求めたチームが多い。

参加資格は、片貝出身者、在住者及び片貝に転勤するもの。コースは例年と同様。▽第1区＝片貝小学校～JA片貝町鴻ノ巣支所前までの2.5km、第2区＝山屋バス回転場付近までの2.2km、第3区＝農協スタンドまでの2.3km、第4区＝安達公務店前までの2.6km、第5区＝小学校グラウンドまでの2.4kmで全コース12kmとなる。

当日は雨天決行、10時、花火の合図でスタートとなる。

かたかい春秋

ひと雨ごとに寒さを感じる季節となった。文化展と駅伝を終えると今年の主な行事もひととおり終了した観がある。▼しばらく停滞していた佐藤邸跡地問題がようやく動き出した。市が建物の耐用年数を専門家に依頼して調査、一部分を残して残りは取り壊して公園整備という原案を示した。▼当初「建物を残したい」という町民からの意見が多かったが、「維持費にお金がかかるとすれば、これ以上町民に負担をかけるのは無理。全て取り壊して公園とした方がよい」との意見が役員衆の大半を占めていた。市が示した縮小案ならば、維持管理費もそんなに大きなものではないだろう。加えてガス、水道、電気代の基本料金と、雪下し代は市から補助を得られそうというから心強い。▼かって市議団と役員が松下電送幹部と懇談した際、一人の市議が「片貝を含めた小千谷に足りないものは何か」と尋ねたところ即座に「公園」との答えが返ってきたとのこと。その意味からも公園整備は早期実現をしてもらいたいもの。市は早く窓口設置を、と注文していたのだから、地元としては早く対応すべきが礼儀というものであろう。▼さて、市では中学校の給食問題がとり沙汰されている。自校方式であろうと共同方式であろうと、中学生への教育効果は大差ないと思う。父母や主人公たる中学生の声を聞いてみてはどうか。おそらく「どちらでもいいから早く実施を」の声が圧倒的だと確信する。ならば、経済性を考えて共同方式で良いのではないか。片貝中はスポーツで上位大会に行くことが多いが、父母を含めた地元の負担は大きい。これら教育全体を見据えた中での給食問題であるべきだ。

文化芸術の秋 総合文化展の秋
2、3両日ふるさと会館

片貝公民館主催の第18回片貝総合文化展が2、3の両日ふるさと会館で開催される。▽2日(日)＝午前9時30分～午後9時マデ▽3日(月)＝午前9時30分～午後4時マデ

リサイクル
2日AM9：30から

リサイクル資源の再利用とゴミ減量を目指して地道な活動を展開している、リサイクルかたかいは、2日（日）午前9時から9時30分まで、片貝支所前で今年最後の収集活動を行なう。空缶（アルミ、スチール分別）、ボロ布、ダンボール、新聞紙（チラシを除くこと）、発泡スチロール（洗って出す）、乾電池などを集める。

「ピピ　とべないホタル」
いじめを考えるアニメ感動呼ぶ
片貝小PTAが10月4日に上映、講演会も開催

いじめをテーマにしたアニメーション映画「ピピとべないホタル」が、10月4日午前9時から片貝小学校南運動場で開催された。PTAの文化教養部が主体となって実現した企画で、学校側は授業の一環として全校児童が観賞、チケット購入の一般町民も参加、会場は感動に包まれた。

上映終了後、会場を視聴覚教室に移し原作者の小沢昭巳氏による講演会「緩やかな絆」を開催。小沢氏は「ピピは右眼が不自由だった自分である」ことなどを紹介しながら、元小学校々長として観てきた子供の世界の実態を語りながら、家族が全ての基本であり〝緩やかな絆〟が必要と語った。

たすけ合うということ

三年　藤塚洋平

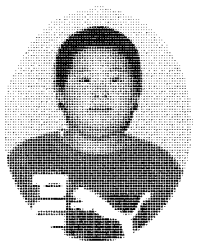
ぼくはえいがを十月四日の、一、二時間目に見ました。ないようは、ピピとべないホタルです。

見ていくうちに、かなしいえいがか楽しいえいがか、わからなくなりました。

でも一番心にのこった場めんは、ピピがキラというホタルをたすける場めんです。

キラは、大こう水がおきて、その時におしながされて目が見えなくなりました。キラをピピがたすけてあげたのです。それでぼくはその場めんが心にのこりました。

他にもいい場めんはあったけど、やっぱりピピがキラをたすける場めんが、たすけあって生きているかんじがすると思うし、みんな友だちのことを思いやっているので、よかったと思いました。



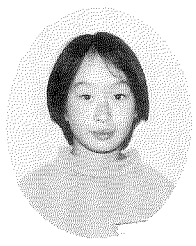
力を合わせたピピたち

四年　山口友理恵

10月4日南運動場で、映写会がありました。ピピと他の仲間が土の中から顔を出し、全員そろいました。そこには、クワガタさんやアリさんたちもいてお祝いに、歌を歌ってくれピピたちは喜びました。いよいよホタル達が飛び始めました。でもピピだけは羽が広がりません。

その時私は、「なんでピピの羽だけ広がらないんだろう。ピピはすごく悲しいだろうな。」と思いました。

今まで住んでいた所も住めなくなり、仲間も少なくなったある日、キラの目が見えなくなりました。でもみんなで力を合わせて遠い旅に出ました。と中でキラがいなくなったりしましたが、無事に虹の見える美しい場所にたどり着きました。ピピは羽がひらかないからめげてばかりいたけど友達がいるから大じょうぶだよ。



私だったらどうするかな

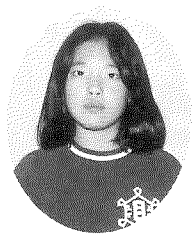
五年　浅田沙織

私は、ピピとべないホタルを見て、いい物語だったなあと終ったあと思いました。とくに感動した部分が何かしょかあります。その場面とは、ショウとミミがクモの巣にひっかかった時、ピピがショウとミミをたすけたところでした。

ピピは、ショウとミミから、とべないからといってわるロを言われたりしたのに、ショウとミミをたすけました。私だったらそんな時、どうするだろうかと、考えました。

もう一つは、キラが台風で、目がみえなくなっても、ピピとキラ、2人の力をあわせて、にじのさきのところまでいったところです。

でも、ピピがとべなかったのが一番かわいそうでした。この映画を見て、今年田んぼでみた、ホタルのことを思いだしました。



勇気のあるホタル君

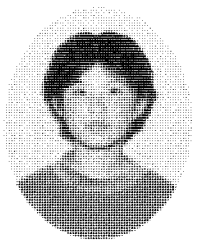
六年　山口亜希子

私は、ピピ君がすごく大好きなキャラクターになりました。くもの巣にひっかかってしまった自分の大切な仲間を命をかけて助けた勇気と、仲間を思うやさしい心、などで感動しました。特に感動した場面は、目が見えなくなってしまって、弱気になっていたキラに、「ボクがキラの目になって、キラがボクの羽になって。」と言ったところです。その言葉が大好きです。

もう一つは、大好きなアイちゃんを、ネズミに追いかけられても、ヘビに追いかけられても、あきらめないでアイちゃんを探して、助け出したというのがすごくよかったです。

たった8ぴきしかいない仲間を一ぴきも死なせないで、がんばったピピがすごくたのもしかったです。

これからも、大切な仲間を大事にして、がんばっていってほしいと思いました。



講演会で感じたこと

表三之町　石上幸美

映写会を見て、主人公「ピピ」のやさしさに回りの人達の励ましがプラスされ、精神的に強く育っていくさまは、物語の中に大人をも引き込む力があるように思います。また、この物語が、病気で片方の目を失った事でいじめられたという本人の体験をもとに出来上ったとの事、心が痛みました。

私は、人間社会の中で「いじめ」は、永遠のテーマのような気がします。先生が話の中で分けたタイプのようにいじめる子ばかりでなく必ずその周りにはやさしく助けてくれる子が存在して、バランスが取れて出合った人によって支えられていくように思います。親が子どもを育てられる部分の何倍も、先生や友達といった人間関係の中で学び、成長し続けていくのではないでしょうか。人は人によって生かされるという事を講演会を通して感じました。

映写会をみて

屋敷　松井乃子

「ピピとべないホタル」の映写会があると聞いた時、私は子供の頃好きだった漫画「みなしごハッチ」を思い出しました。小さなハッチが仲間の為に、仲間と一緒に、大きな虫をやっつける所が、当時身体の小さかった私には、小さくても、やれば出来るんだ!!仲間っていいな!!っていうことを何となく教えてくれたような気がしました。

ピピはホタルなのに飛べないというだけで、仲間外れにされてしまいます。皆んなと少し違うだけで、仲間に入れてもらえないという事が、子供の世界でも大人の世界でもあります。人間は一人一人違うのだから、いろんな人がいて、それぞれの良い所を認め合えば、仲間外れやいじめもなくなるのではないかと思います。

時々ピピの事を思い出し、勇気を出したり、優しい気持ちになれたらと思います。

運動会終わる
雨天なれども熱気ムンムン　新試みの答えは来年以降？

第51回町民大運動会（スポーツフェスティバル）が10月12日(日)午前9時より片貝中学校体育館で開催された。

当日は朝からアラレまじりの悪天候で、今年も昨年につづいて、室内大会となった。広井庄一市長、木村一男県議、関広一市議会議長等を初めとして、大勢の参加者で、場内は外の寒さを忘れさせる盛り上りとなった。

今年は例年と異なり、個人競技はなく、ビンづめレース、大なわ飛び、百足リレー、綱引き等の団体競技で、町内対抗の熱戦が繰りひろげられた。今年新たに計画したソフトボールとゲートボールが雨で実施できなかったのが残念…と関係者。昼食休憩時には、主催者が用意しておいた千人分の熱い豚汁を飲みながら、小林光紀師範と門下生が演ずる空手の模範演技に大きな拍手がわいた。

競技終了後、昨年度好評だった全員参加によるクイズ大会が今年も行なわれ、決勝戦では一昨年還暦の松井さん（三之町）の善戦及ばず、6才の佐藤なつみちゃん（茶畑）が1位になり、賞品の電気コタツが贈られた。幼くかわいいなつみちゃんの優勝に会場はヤンヤのかっさい（写真下）。大会の結果は次の通り。

▽総合＝優勝四之町、②三之町、③町裏、④五之町・八島、⑤二之町、⑥一之町、⑦鴻巣

▽ビンづめレース①三之町、②五之町、③四之町

▽大なわ飛び①四之町、②五之町、③二之町

▽百足リレー①町裏、②二之町、③三之町

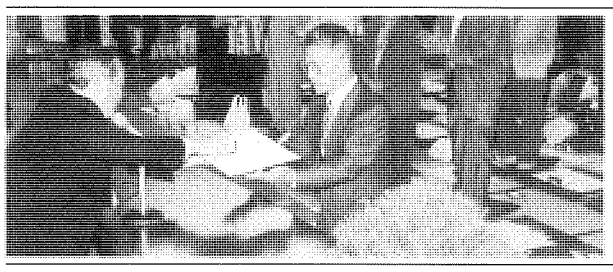
▽綱引き①四之町、②三之町、③一之町

敬老会盛大に開催さる
孫たちの熱演に大きな拍手

平成9年度片貝地区敬老会（片貝町協議会主催）が、去る10月5日午前10時から片貝小学校南運動場で開催された。

本年度の対象者904名のうち、雨降りの悪天候にもかかわらず過半数以上の600名前後が出席し、喜寿の小林計助さん、横山ヌイさん他45名に対して、広井市長から褒状、金杯、祝い菓子が手渡された。市長は被表彰者一人ひとりと握手をして、激励の言葉を送っていた。

吉原公民館館長の音頭で乾杯の後、アトラクションが始まると、片貝保育園児の遊戯や片貝小学校の合唱等で、自分達の孫を見つけると大きな声援を送り、会場はが然にぎやか、秋の一日を楽しんだ。



尚今年米寿を迎える明治42・43年生れは次の18名。

▽片貝町最高齢者＝堀井トヨノ（97、町裏）

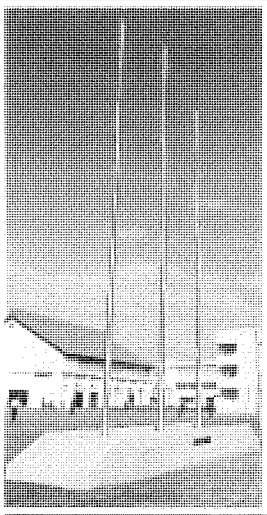
▽95才＝久賀レツ、安部ノウ

▽88才＝大矢健三郎、安達ハナ、大矢チオ、南波ヨネ、吉井熊治、小宮ヨシノ、木曽千代、大矢クラ、黒崎重吉、丸山ハマ、神林ノブ、横山トシ、藤塚たま、佐藤シズ、本田ナヲ、小宮マツ、堀井ツヨ、大矢モイ

あとは本番(16日)を待つばかり
中学校に国旗掲揚塔完成

片貝中学校創立50周年記念式典が、来る16日午前10時より片貝中学校体育館で挙行される。

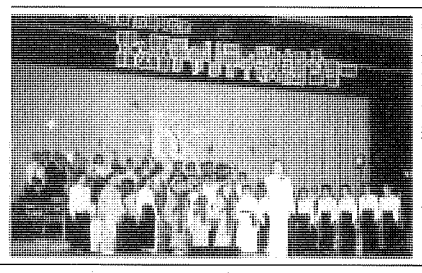
記念事業の校門や生徒とPTAの奉仕による玄関前庭の整備・東京片貝会寄贈による国旗掲揚塔（写真）等は完成し、式典当日を待つばかりとなっている。



国旗掲揚塔は10月12日の町民大運動会に使用して、大勢の人から見ていただく予定にしていたのですが、生憎の雨降りでそれが実現出来なくて残念でした、と名塚孝一実行委員長は語った。

▼読み聞かせ会11月の予定＝絵本や紙芝居の読みきかせのボランティアの「読みきかせ会」の11月の活動予定は、11月7日(金)午後3時～、15日(土)午前10時～、21日(金)午後3時～、三回、いずれも片貝ふるさと会館で開催する。

歌のK&K15周年記念
デイホーム等へ寄付



歌謡曲の愛好グループ「K&K」（小宮賢一主宰、会員六十七名）は、去る9月28日片貝スポーツセンターで、昼夜にわたり二回、グループ結成十五周年記念「チャリティ歌謡ショー」を開催、合計千四百名が会場に訪れた。

同会は元古賀政男音楽院の小泉清氏に歌の指導を受けており、加えて今回の発表会に際しては、会の中で予選会を行い約半数の三十五名にまで絞り込んだため歌唱力は抜群。カラオケだけでなく生演奏も入れ、民謡や詩吟も組み込み趣向満点のステージとなった。

収益金の中からデイホームかたかいへ十五万円、市社会福祉協議会へ二十万円寄贈した。

ハローベイビー

○安達詠莉菜ちゃん（五之町）
パパ康博さん（30才）
ママ直美さん（29才）
第2子次女
平成8年9月25日生
現在の体重8.5kg身長70cm

Q名前の由来

A女の子らしい、名前がいいと思って考えました。

Qお子さんの様子

A二番目の子はそうだと言われますが、なんでも食べるし、なんでも自分でしたがるし、とにかく元気いっぱいです。

Qどんな子に育って欲しいですか

A笑顔の絶えない、明るく元気な子に育って欲しいです。

◀おねえちゃんといっしょの詠莉菜ちゃん

片貝ヒューマンウオッチング
安部さん上映会を振り返る

去る10月4日、片貝小学校でアニメーション映画「ピピ　とべないホタル」が上映され、児童達に大きな感動を与えた。この映画上映はPTAの文化教養部が中心となって実現したもので、提案者は副部長の安部麻子さん（34、三之町）。安部さんに苦労談や成功の喜びなどを聞いてみた。

安部さんは新潟市から、歯科医師の恒さんと結婚して片貝人に。小学校二年生の長女を頭に一男二女の母親であり、家族は八人と大勢。

数年前、原作「とべないホタル」を知り、大きな感動を受けた。そして今年4月に新潟市で特別試写会の報を聞き、何とか片貝でも上映会を開き全校児童、そして父母等も一緒に観賞出来たら、と思いたち、PTAの文化教養部の教諭等に話したところ、原作の童話を読んだ教諭もおり、「是非上映を」と一挙に具体化し走り出すことになった。

しかし、大きな難問があった。経費が文化教養部予算の五倍にものぼることが分かり、早くも立往生かと思ったが、岩田校長が「学校も応援します」と力強い言葉、同意が得られるかどうか心配しながら文化教養部に図ったところ、衆議一決、前向きな意見ばかりで一丸となってとり組むことになった。

片貝小PTA事業として実施することも認められ、JA片貝町も資金援助してくれ、チケットも約百枚が売れ、赤字にならないことが分かり当日を迎えることが出来た。

そして当日、児童は勿論、そこにいた大人達全員を感動で包み込んだ。映画終了後、原作者の小沢昭巳先生による講演会も素晴らしかった。

――こう経緯を振り返りながら、安部さんは「成功は大勢の人達の力の結集によるもの」と語る。そして子供達へ「時々この映画のことを思い出してほしい。自分達の周りにピピがいたら理解し合い、仲間になってあげて。もしも、自分がピピのようだと感じても、決して一人ぼっちではない。かけがえのない家族がいるし、必ずあなたを分かってくれる仲間はいる」と熱いメッセージを贈っていた。